



3・4年生のセカンドスクール

帝京大学小学校 校長 石井卓之

6月16日(日)から3年生は2泊3日、4年生は3泊4日の行程で八ヶ岳のセカンドスクールに行って来ました。コロナ禍後に始めた新たな異学年縦割りのセカンドは、今回の形式で完成形となります。4年生は昨年度、この施設での宿泊を経験しているので、見通しをもちながら3年生のリードとなることができていました。特に昨年度経験したでん(秘密基地)づくりについては少年自然の家の施設長さんが、「昨年度の経験を生かすだけでなく、新たに創造性を発揮してつくり出したでんは、小学校3・4年生レベルを超えていて、驚かされました。」と話してくださいました。経験を積み重ね下級生をリードしながら取り組んでいたことが評価されたと感じました。教員サイドでは、昨年度のスズランテープの使用が環境に負荷を与えていたとの反省から、麻縄に変更するなど、より改善された取り組みとなっていました。そして3年生が東京に帰る日、4年生は今年度新たに取入れたプログラム、カレー・ご飯づくりに挑戦しました。当日は大雨でしたが、屋根のある炊事場で予定通りに昼食を作ることができました。計画を立てる段階で4年生の担任からカレー・ご飯の両方を作りたいと相談されたとき、私はどちらか一方にした方がよいのではないかと考えました。しかし、3時間という余裕がある時程が確保されていたこと、1班毎にほぼ1名の教員を配置できていたことなど、安全配慮上の対応がなされていたことから実施を許可しました。調理の中で包丁を使う学習は学校では5年生からとなりますが、日常的に家庭で調理を手伝っている子や今回のために練習をしてきた子が、大活躍してくれました。標高が高いので沸点が低く、予想以上に野菜に火が通るのに時間がかかったこと以外は問題なく、どの班もおいしいカレーや味噌汁(カレーを食べられない子)を作ることができました。「今まで食べたカレーの中で、一番おいしかった。」と感想を述べていた子もいました。改めて、両方に取り組むことを計画した4年生の担任に感謝しました。また、雨で濡れていた子どもたちの靴をみて、施設の方が冬季のスキー教室の際に使っている乾燥室を開放して乾かして下さったこともありがたかったです。

今回1つ失敗したことは、4年生の3日目の夕食と4日目の朝食が同じ献立となっていたことです。多摩市の学校は全て2泊3日で実施しているため、新たなアレルギー献立を帝小と施設で考えることが抜けていました。最終日に施設長さんとお話をして、次年度に向けて改善を図ることを確認しました。

後援会総会での予算案、児童会で考える機会をいただいたお礼

12日(水)の後援会定時総会では、皆様のご協力をいただきありがとうございました。予算案に書かれていたバザーの売上金の一部を教材・備品購入として「児童会の協議で決定」という提案をいただき、感謝いたします。子どもたちに目的をもって考える機会をいただけたこと、何よりうれしく思いました。さて、どう考え、何を購入するのか、見守りたいと思います。

職員室の窓

早いもので、帝京大学小学校に勤務するようになって5年目となりました。相談件数も増えて既にお会いした方々がいらっしゃる一方で、未だスクールカウンセラー(SC)に相談することへの抵抗感を覚える方も多いのではないかと思います。私自身SCが当たり前のようにいる学校生活ではなかったので、「SC=よく分からない人」と思われるのも想像に難くありません。それでも敢えてお伝えしたいのは、相談への不安、あるいは相談を勧められたことに納得できない気持ちも含め、ぜひ気負わずに話していただきたいということです。お話を伺う中で何が問題となっているのか、どうしていったら良いのかを一緒に考えていきます。それはまさに共同作業と言って良いかもしれません。

SCとしての私の役割は、子どもたちが安心して学校生活を送れるように、そして自分自身の力で目の前の壁を乗り越えた!と実感できるようにお手伝いすることだと思っています。そのためには保護者の皆さまのご協力が必要不可欠です。ご家庭での様子と学校での様子を擦り合わせながら、たくさんのアイデアを出し合っていけたらと思っています。



《スクールカウンセラー
鈴木 麻里
(臨床心理士・公認心理師)》